

【視点 学力の向上】

- ① 児童が主体的に活動し、平成 28 年度本校アンケート調査や研究授業時のふりかえりで「効果的に I C Tを活用できるようになった。」児童の割合を中間で 70%以上、最終で 80%以上にする。
(カリキュラム改革関連)
- ② 平成 28 年度本校アンケート調査で「授業で自分の考えを持ち、意見を伝えようとしている」と回答した児童の割合を中間で 75%以上、最終で 80%以上にする。
(カリキュラム改革関連)
- ③ 基礎基本となる学力の向上を図り、本校アンケート調査で「テストを自分の力で最後まで解こうとしている。」と回答した児童の割合を 80%以上にする。
(カリキュラム改革関連)

【視点 道徳心・社会性の育成】

- ① 平成 28 年度の本校アンケート調査で「交流行事のときに自分からあいさつをしている」の項目によくあてはまる・あてはまると回答する児童の割合を、中間で 75%以上、最終で 85%以上にする。
(カリキュラム改革関連)
- ② 平成 28 年度の本校アンケート調査で「自ら進んでそうじをすることができている」の項目によくあてはまる・あてはまると回答する児童の割合を、中間で 75%以上、最終で 85%以上にする。
(カリキュラム改革関連)
- ③ 平成 28 年度の本校アンケート調査で「学校では、子どもの命や人権を大切にする意識を育てようとしている」の項目によくあてはまる・あてはまると回答する保護者の割合を中間で 80%以上、最終で 85%以上にする。
(マネジメント改革関連)

【視点 健康・体力の保持増進】

- ① 平成 28 年度の本校アンケート調査で「よい姿勢を保つように努力した」の項目でよくあてはまる・あてはまるの割合を中間までに 70%以上にし、年度末までに 75%以上にする。
(カリキュラム改革関連)
平成 28 年度の本校アンケート調査で「睡眠が十分にとれている」の項目でよくあてはまる・あてはまるの割合を中間までに 75%以上にし、年度末までに 80%以上にする。
(カリキュラム改革関連)
- ② 平成 28 年度の本校アンケート調査で「嫌いな食べ物がある児童のうち、それを食べようとした」の項目でよくあてはまる・あてはまるの割合を中間までに 85%以上にし、年度末までに 90%以上にする。
- ③ 平成 28 年度の本校アンケート調査で「昼休みは運動場や講堂・体育館で体を動かしていることが多い」の項目でよくあてはまる・あてはまるの割合を中間までに 75%以上にし、年度末までに 80%以上にする。
(カリキュラム改革関連)

【小中一貫に向けて】

- 小小連携、小中連携に関する様々な活動を通して、平成 28 年度末の児童・保護者アンケートにおける「他校と交流している。」の項目について「とてもそう思う」「そう思う」と答える児童・教職員の割合が中間で 50%以上、年度末までに 55%以上にする。
(マネジメント改革関連)

「ICT を活用した教育」に関しては十分な成果が出ている。本校が独自に導入してきたシステムの活用に加えて、今年度は市教委が導入した新しいタブレットのシステムも授業研究で最大限に活用することができている。デジタル教科書を使った授業も日常化し、教職員・児童ともに、ICT 機器を十分に使いこなしている。

「言語力や論理的思考力の育成」については、校内の行事を充実させたり、生活科・総合において調べ学習を充実させる中で、地域へのインタビューの機会を増やすなど、例年以上に充実した学習活動を展開することができた。

「個に応じた学習指導」に関しては、計画に従って取り組みを続けてきて、その成果は出ている。特に全国学力・学習状況調査の結果は毎年わずかながら上昇しており、確実に成果に結びついていると言える。しかし、児童の学力差はまだまだ大きく、基礎・基本の定着のための取り組みを今後も充実させる必要がある。

「道徳心・社会性の育成」については、特に今年度は小中一貫校への統合を控えていることから、「基本的生活習慣の確立」、「規範意識の育成」、「人権を尊重する教育の推進」の全ての項目において、例年以上に充実した取り組みをしてきた。具体的には、集団づくり、他校との交流、地域学習等において、常に一貫校を意識した取り組みをしてきた。また、今年度は本校の取り組みを区の「人権実践発表会」で発表し、本校の取り組みを広く紹介してきた。取り組み自体は例年以上に充実していたが、残念ながら本校のアンケートでは目標に達しなかったり、目標に達していても中間評価より下がっていたりするなど、十分な成果を上げることはできなかった。統廃合を控えて、不安を感じていることが少なからず関係していると分析している。

「健康・体力の保持増進」については、「健康な生活習慣の確立」、「食育」、「体力向上への支援」のいずれも充実した取り組みをしており、特に「健康な生活習慣の確立」については校医の先生を招いて PTA とともに学校保健委員会を開催するなど、保護者にも協力を呼びかけることができた。しかし、「道徳心・社会性の育成」同様、充実した取り組みの割には成果が伴わず、数値目標を下回る結果となった。

「小中一貫に向けて」は、従来の小中連携の枠を超えた多様な取り組みを行い、3 小共同開催の行事が充実させることができた。児童間の交流も深まっており、大きな成果を上げることができた。来年度開校する小中一貫校に向けて、児童の不安を軽減する効果があったと分析している。

例年以上に充実した取り組みを行ってきたが、統廃合の影響はたいへん大きいと結果を見て改めて実感している。これから閉校に向けて、児童一人一人が一貫校に向けて自分なりの目標を持ち、来るべき新生活を心待ちにできるよう、残されたわずかな時間にも取り組みを充実させていきたい。